

中性子施設連携 WG 第 1 回会合議事録

- 1) 日時：2019 年 9 月 5 日 15：00～18：00
- 2) 場所：北海道大学東京オフィス
- 3) 参加者 鬼柳、上本、篠原、熊田、田崎、山室、友寄、齊藤泰司、木野、
瓜谷、広田、武田、大友、加美山、鈴木淳市、金谷、
清水 (TV 会議)
欠席者：大竹、三和田
オブザーバー参加：J-PARC 齊藤、QSC 鹿内
- 3) 議事項目：
 - (1) 挨拶・趣旨説明
 - (2) 自己紹介
 - (3) 3 月 28 日連携研究会のときの打合せの議論の復習
 - (4) 中性子施設と連携アイテム
 - (5) 大型施設からの要望 (連携研究会金谷先生資料)
 - (6) 今後の予定
- 4) 中性子施設と連携アイテム
(議事項目 (4) のまとめ)
 1. 施設間連携
まずは、風通しを良くする。
非効率な施設利用を防ぐ (各施設に適切な実験)
 2. 装置間連携
イメージング： 齊藤さん、篠原さんが纏め役で全施設連携で進める
モデルケースとして進める
小角関係： JRR-3 の再稼働を見ながら J-PARC 他と鈴木さん
回折関係： JRR-3 の再稼働を考えて、東北大装置を含めて武田さん
非弾性： JRR-3 の再稼働を見ながら検討
(その他)
JRR-3 で軸たて予備実験ができないか？
照射試料を他の施設に持っていけるようにできると良い。
法改正で施設間移動が難しくなったようだ。法律、手続き要確認。
 3. ユーザーがアクセス・利用しやすいシステムの構築
個々の中性子施設の利用の他、階層的 (小型から大型) もある。
共通の相談窓口があるのが良い。
当面は既存の JCANS 窓口を利用する。
(将来的には、中性子科学会が管理する方向で進める。学会提案の大型マスタ

ープランの中性子施設ネットワーク)

4. 中性子科学の普及

a. 中性子スクール

既に、中性子・ミュオンスクールが実施されている。(J-PARC & JRR-3)。

英語、年1回、装置をベースの講義・実習

サイエンスを中心にして、中性子の基礎から教えるスクールはあっても良い。中性子サマースクールのようなものの実施を検討する。英語のため敷居が高いという状況もある(日本語、小型を使う講習などが可能か?)

手法ベースで行うものとサイエンスベースでやるものがある。

手法ベースでは毎年テーマを変えても良い。参加者が試料を持参するなど。

学生の旅費をどうするかについて、KEKの資金援助を頼めないか?

(既にある中性子・ミュオンスクールのロードを考え、ロードが偏らないようにする。)

b. 施設カタログ

初心者にも分かりやすい施設紹介 指標の作成

窓口対応などするときの説明資料にもなる。

5. 人材交流・育成

クロスアポイントメント。大型の人の小型での実験。学生の参加の促進など。

(交流の例)

CROSS: 東北大の学生が来て一緒に装置の世話をしてもらった。

(良い経験との感想。他でもできると良い)

北大: 検出器の講習 (KEKの宇野先生指導)。他大学の参加も可能。

(教育カリキュラムの例)

北大: 卒論・修論等で各5名位

茨城大: 学生に教育

名大: 修論で利用、学部はRIを使う所まで。

京大: 工学部は実験に利用。理学部は2年に1度位卒業実験

5) 大型施設からの要望

小型で予備実験して大型で精密測定。

この際の成果については、小型の段階で成果をまとめるようにする。大型で実験するときも、小型の人が研究に参画し、論文に名前が入るような貢献をすると良い。

6) 今後の予定

第2回連携WGを12-2月の間に実施する。